

I 学校の概要

本校は西之表市街地の高台、海拔37mの場所に位置し、児童数は488名（R4.2.1現在）、創立145年を迎える歴史と伝統のある学校である。

赤尾木城跡に建てられた本校は、平成17年に校舎と体育館を一新し、近代的な造りとなっている。

II 避難訓練の取組の概要

1 取組の内容、方法

避難訓練終了後、消防署職員が職員に対して防火設備の使用法についての説明を行った。本校では、主事室に自動火災報知設備を設置しており、火災発生時にどのように作動するのか、電力源を失った際、どのように消防に連絡を行うのかなどの説明を受けた。

これに加えて、自動火災報知設備と連動しているポンプ室内の設備についての説明も受けた。

2 避難訓練の内容とねらい

(1) ねらい

火災や地震、津波等の非常事態に際して、児童一人一人に安全にすばやく避難できる能力を身に付けさせる。

(2) 想定

西之表市を震源とする大規模な直下型の地震が発生。その際に主事室より出火し、延焼の恐れがある。

(3) 内容

地震と、それに伴う火災の発生を放送する。避難指示に従い、児童は校庭に避難する。職員が全児童数を確認の上、校長に報告する。

3 避難訓練実施までに工夫したこと

職員会議での内容確認

避難訓練に備えて、安全指導部員での集まりや職員会議の機会に、訓練についての状況設定や、対応の仕方について協議を重ねた。前年度までの流れをそのまま踏襲するのでは

「児童の整列の仕方」や「人数確認・報告の仕方」など、これまでとは異なる方法であっても、よりよいと思われる考えを訓練で積極的に取り入れ、訓練後に職員間でフィードバックを行う形で訓練に臨んだ。

4 避難訓練の状況

(1) 地震とそれに伴う火災の避難訓練の実施

- ア 開催期日 令和3年4月21日（水）
イ 参加者 全児童487名、全職員42名
消防署職員

(2) 火災報知設備説明の実際



5 取組の成果と課題

(1) 成果

消防署の職員が実際に設備の説明を行うことで、緊急時において職員が火災発生場所を速やかに特定し、適切に行動を指示できる資質を向上させることができた。また、施設説明の動画を撮影することで、いつでも見返すことが可能となった。

(2) 課題

本校の特徴として職員の入替わりが多いことから、設備の使用法についての共通理解や引継ぎを適切に行う機会を設けることが求められる。

いつ災害が起きても、冷静かつ適切に全職員が対応できるように、職員の災害への意識と、それに対処できる資質の向上を今後も継続的に行っていく必要がある。